

各務原市産業振興の グランドデザイン

1 基本理念～目指す都市像

グレーターナゴヤで煌めく 産業活力創造都市・各務原の躍進

目標水準	人口一人当たり市民所得	平成25年度	339万円
		平成30年度	369万円
	市内総生産額	平成25年度	6,600億円
		平成30年度	7,200億円

我が国経済を取り巻く状況を見ると、少子高齢化・人口減少、グローバル化、知識経済化といった大きな変革が着実に進行している。

各務原市が大きく飛躍する未来に向けて、市民生活の豊かさの向上と都市基盤の充実を図っていくためには、その源泉として活力ある経済活動が欠かせない。

このため、市内企業のたゆまぬ努力と地域の産業政策をしっかりとかみ合わせ、地域全体のポテンシャルを高めることが重要であり、企業、市民・NPO、関係団体など、都市に関わるあらゆるプレイヤーが協働しながら、そのチカラを最大限に発揮できることが大切である。

時代の変化に果敢に挑戦するプレイヤーによる創造性あふれるビジネスの展開が、にぎわいや活気をもたらし、また、自然に恵まれ、快適な生活空間に息づくコミュニティや文化など都市の力が、さらに本市の魅力を高める。

こうした魅力を、グレーターナゴヤを始め、広域的に浸透させていくことで、各務原市に惹かれて、ヒトが訪れ、交流、連携の輪を拡げる。

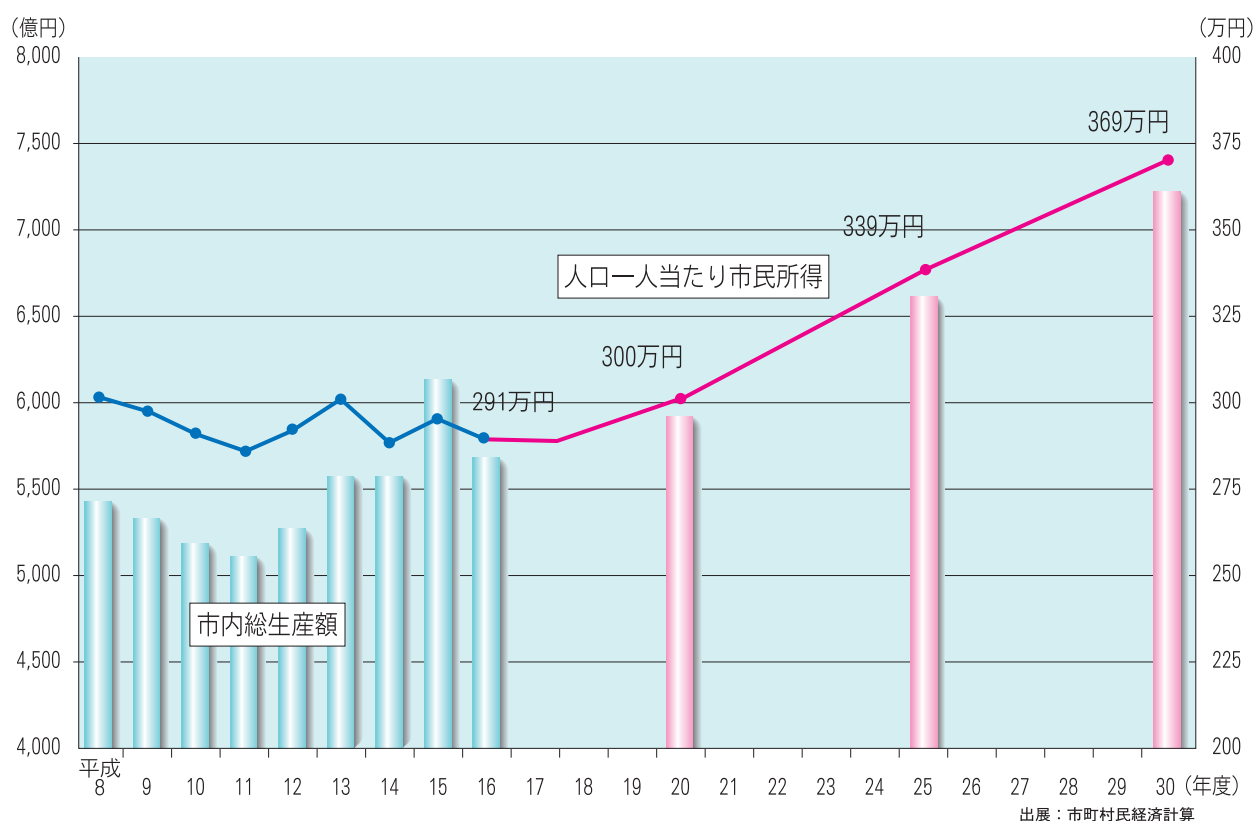
各務原市が目指す"産業活力創造都市"、それはものづくりとサービスの双発のエンジンが絶え間ないイノベーションを生み出す都市空間である。また、この都市空間こそが、“かかみがはらブランド”である。

そのためには、**創造的な産業空間と魅力あふれる生活空間**、双方の都市空間を同時に達成しようとするアグレッシブな取り組みが必要である。

都市空間では、「国の財（たから）」と言われる「人財」が活躍し、**都市に活力（Vitality）**をもたらし、**都市の価値（Value）**を高めていく。

その目標として、平成30年度には各務原市経済全体の水準である人口一人当たり市民所得を369万円（対平成16年度比26.8%増加）、経済規模を示す市内総生産額7,200億円（対平成16年度比27.0%増加）を掲げる。

人口一人当たり市民所得と市内総生産額の推移及び目標



各務原市産業振興ビジョンでは、そのグランドデザインとして目指す都市像を3つの側面から描き、それぞれの目標数値を掲げる。

ものづくりの強みをさらに発揮する都市

各務原市の発展を今日まで牽引してきたものづくり産業は、産学官の一大拠点であるテクノプラザがさらに求心力を高め、航空宇宙、ロボット分野など次代を担う成長産業分野が育つ中、絶え間なくイノベーションを創出し、将来にわたって各務原市産業の主要なエンジンであり続ける。

目標水準	・製造業生産額	平成16年度	2,450億円
		平成25年度	3,000億円
		平成30年度	3,200億円
	・カイゼン新規導入企業数（累積）	平成19年度	4社
		平成25年度	10社
		平成30年度	30社

拡がる交流の中で、地域発サービスの魅力を高める都市

自然、景観、歴史、文化を始め、創造的で活発な産業活動などの多彩な資源に支えられ、地域に根ざした商業・サービスを新たに切り拓き、サービス産業が第二の成長エンジンとして、都市はにぎわいや活力に満ちた産業活動が繰り広げられる。

目標水準	・サービス産業生産額	平成16年度	3,006億円
		平成25年度	3,400億円
		平成30年度	3,700億円
	・観光客数（延べ人数）	平成19年	5,960,217人
		平成25年	6,500,000人
		平成30年	7,000,000人

多様な連携を活かし、創造性あふれる人財が活躍する都市

誰もが自らの能力の向上に努め、様々な価値を生み出す創造的な活動に取り組み、生きがい、働きがいを感じながら、活躍する都市。

「美しい都市」には優れた「人財」が集まり、豊かな生活が営まれ、活力に満ちた産業活動が展開される。

目標水準

・ 就業者一人当たり市内総生産額

平成16年度	911万円
平成25年度	1,056万円
平成30年度	1,150万円

・ 経営革新計画承認件数（累積）

平成19年度	57件
平成25年度	120件
平成30年度	155件

・ 産学官連携新規プロジェクト創出件数（累積）

平成25年度	50件
平成30年度	100件

産業活力創造都市 各務原の躍進

ものづくりの強みを
さらに発揮する都市

拡がる交流の中で、
地域発サービスの魅力
を高める都市

イノベーション創出空間
各務原ブランド

多様な連携を活かし、
創造性あふれる人財が
活躍する都市